

要 旨

「 現在ではニュートリノ振動によって CP 対称性の破れについての研究や、ニュートリノの質量や反応断面積の測定を目的に含んだニュートリノ振動実験が数多く行われている。これまでの実験では、電気検出器を用いていたため、低エネルギー領域の陽子を検出できていなく、MeV \sim GeV 領域でのニュートリノ反応断面積の測定結果を統一的に説明できるモデルがない。
NINJA 実験では、空間分解能、粒子識別能力に優れた原子核乾板を用いることで、低エネルギー領域における陽子の検出を可能とし、ニュートリノ-原子核の反応断面積の精密測定を目的としている。本研究では NINJA 実験の RUN6 のデータを用いて反ニュートリノのイベントの解析を行った。

└

┘